

Oracle® VM

Server インストレーション・ガイド

リリース 2.1.2

B51695-01

2008 年 11 月

このマニュアルは、Oracle VM Server をインストールするシステム管理者を対象としています。このドキュメントでは、Oracle VM Server のダウンロードとインストールについて説明します。内容は次のとおりです。

- [インストール前のタスクと前提条件](#)
- [CD-ROM からの Oracle VM Server のインストール](#)
- [他のソースからの Oracle VM Server のインストール](#)
- [Oracle VM Server のアップグレード](#)
- [ドキュメントのアクセシビリティについて](#)
- [サポートおよびサービス](#)

1 インストール前のタスクと前提条件

Oracle VM Server のインストールを開始する前に、コンピュータが最低限のハードウェア要件およびソフトウェア要件を満たしていることを確認してください。この項では、次の内容について説明します。

- [ハードウェア要件](#)
- [ソフトウェア要件](#)
- [ネットワーク要件](#)
- [ソフトウェアの入手](#)

1.1 ハードウェア要件

Oracle VM Server は、x86 (i686) および x86_64 プロセッサを搭載したコンピュータをサポートします。これには、すべての Intel Pentium Pro およびそれ以降のプロセッサと、すべての AMD Athlon/Duron およびそれ以降のプロセッサが含まれますが、Pentium 4 または Athlon 以上の CPU を使用することが推奨されています。

ハードウェアの仮想化に対応した（未修正の）ゲスト・オペレーティング・システム（Microsoft Windows など）の場合、ハードウェアの仮想化をサポートする CPU が必要です。これには、Intel Pentium D/Core/Core2/Xeon モデルと AMD Athlon/Opteron モデルが含まれます。また、この機能を BIOS で有効化する必要があります。ハードウェアの仮想化がサポートされているかどうか、また BIOS での有効化方法については、ご使用のプロセッサのドキュメントを参照してください。

複数のゲストを実行する場合は、デュアル・コア CPU または複数の CPU を使用するようお勧めします。

最小のメモリー要件は 1GB RAM ですが、2GB RAM を搭載したコンピュータの使用をお勧めします。ゲストのメモリー要件は、ゲスト・オペレーティング・システムごとに異なります。ゲスト・オペレーティング・システムについては、個別にメモリーのサイジングを行ってください。

1.2 ソフトウェア要件

ソフトウェアの前提条件はありません。Oracle VM Server には、Linux ベースの小規模な管理オペレーティング・システムが含まれます。Oracle VM Server をインストールする際、既存のオペレーティング・システムとデータはすべて失われます。

オペレーティング・システムまたは以前の仮想化環境からの移行は、このリリースではサポートされていません。

1.3 ネットワーク要件

Oracle VM Server は、静的 IP アドレスのマシンにインストールすることをお勧めします。マシンで DHCP を使用する場合は、DHCP サーバーを構成して静的 DHCP アドレスを割り当てる必要があります。これによって、ホストは常に同じ IP アドレスを受信できます。DHCP のリース期間によって IP アドレスが変わる可能性のある環境で使用すると、Oracle VM Server ホストの動作が不確定になります。

1.4 ソフトウェアの入手

Oracle VM Server ソフトウェアを準備していない場合は、次の URL から Oracle VM Server の ISO ファイルをダウンロードします。

<http://www.oracle.com/virtualization>

Oracle VM Server の ISO ファイルから起動用 CD-ROM を作成します。

Oracle VM Server は、次のように複数のソースからインストールできます。

- ローカル CD-ROM
- ハード・ディスク・ドライブ
- NFS サーバー
- FTP サーバー
- HTTP サーバー

CD-ROM から Oracle VM Server をインストールする場合は、2 項「[CD-ROM からの Oracle VM Server のインストール](#)」を参照してください。

ハード・ディスク・ドライブ、NFS サーバー、FTP サーバー、または HTTP サーバーから Oracle VM Server をインストールする場合は、3 項「[他のソースからの Oracle VM Server のインストール](#)」を参照してください。

2 CD-ROM からの Oracle VM Server のインストール

CD-ROM から Oracle VM Server をインストールするには、次の手順を実行します。

1. Oracle VM Server CD-ROM を CD-ROM ドライブに挿入します。
2. Oracle VM Server CD-ROM がセットされているコンピュータを起動します。
3. 「Oracle VM Server」画面が表示されます。



[Enter] を押して、インストールを開始します。1 分間キーを押さなかった場合、インストーラが自動的に起動されます。インストーラは、テキスト・モードでのみ使用できます。

4. 「CD Found」画面が表示されます。



CD-ROM が正しく作成されているかを確認するには、インストーラを使用してエラー・テストを実行します。CD-ROM をテストするには、「OK」を選択し、[Enter] を押します。CD-ROM がテストされ、エラーが通知されます。

メディア・テストをスキップしてインストールを続行するには、「Skip」を選択し、[Enter] を押します。

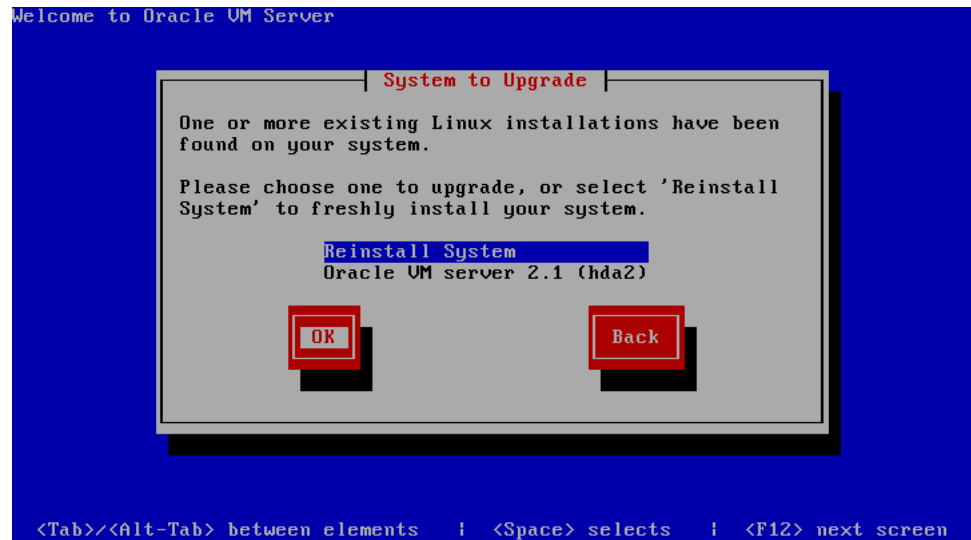
5. 「Keyboard Selection」画面が表示されます。



使用できるオプションのリストからキーボード・レイアウト・タイプ（米語の **us** など）を選択します。選択したキーボードは、オペレーティング・システムのデフォルトのキーボードになります。

「OK」を選択し、[Enter] を押します。

6. 既存の Oracle VM Server インストールがコンピュータに存在する場合は、「System to Upgrade」画面が表示されます。

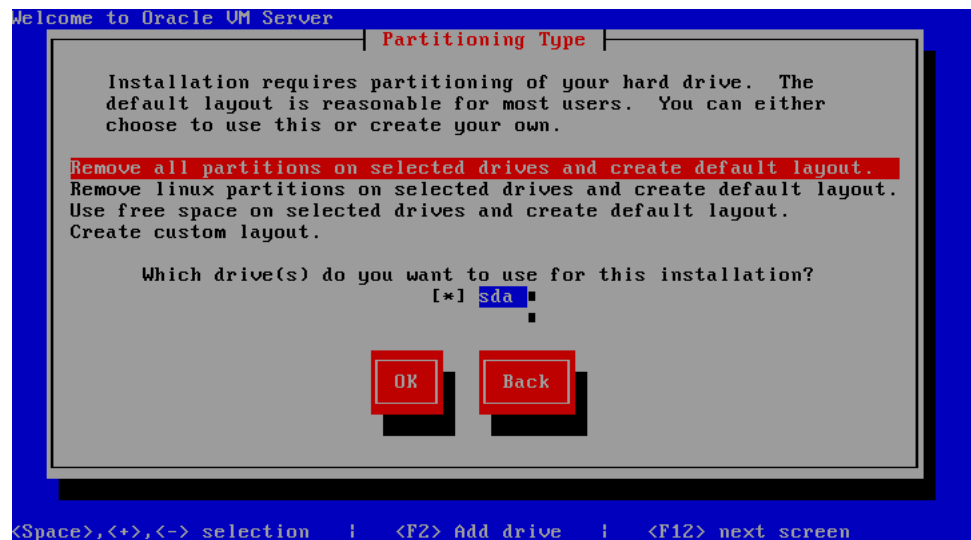


既存のインストールを上書きするには、「Reinstall System」を選択します。

既存のインストールをアップグレードするには、「Oracle VM Server 2.1 (disk)」を選択します。アップグレード手順は、4 項「Oracle VM Server のアップグレード」を参照してください。

「OK」を選択し、[Enter] を押します。

7. 「Partitioning Type」画面が表示されます。



必要なものを選択します。

- Remove all partitions and create a new default partition layout
- Remove all Linux partitions and create a new default partition layout
- Use the free space on selected drives to create a new default partition layout
- Create a custom partition layout

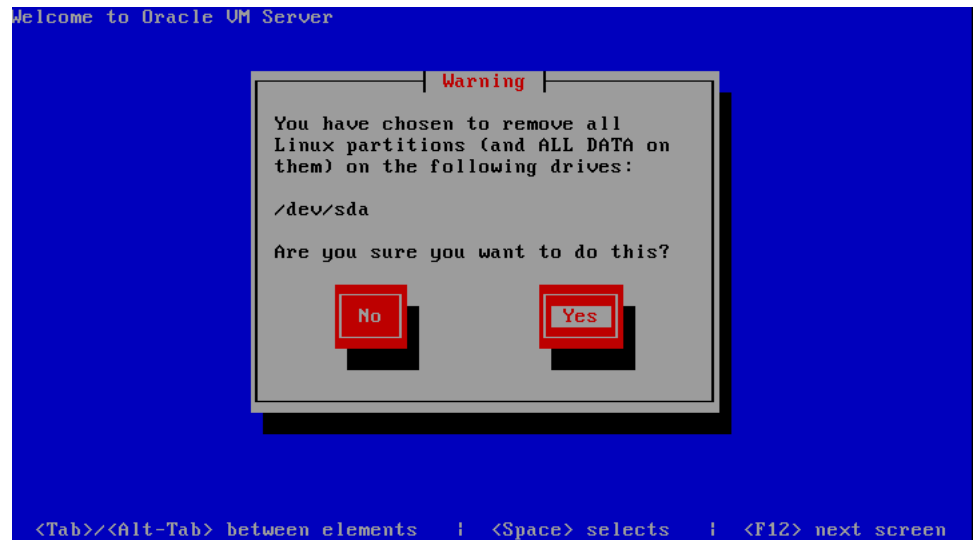
デフォルトのパーティション・レイアウトを使用することをお勧めします。

注意： Oracle VM Server インストーラはテキスト・モードでのみ実行可能なため、LVM（論理ボリューム・マネージャ）は設定できません。LVM 構成を行うには、[Alt] を押しながら [F2] キーを押す、ターミナルを使用して lvm コマンドを実行します。Oracle VM Server インストーラに戻るには、[Alt] を押しながら [F1] キーを押します。

インストールに使用するドライブを選択します。

「OK」を選択し、[Enter] を押します。

8. パーティションの削除を選択すると、パーティション（パーティションに格納されているデータを含む）の削除を確認する「Warning」画面が表示されます。



「Yes」を選択し、[Enter] を押します。

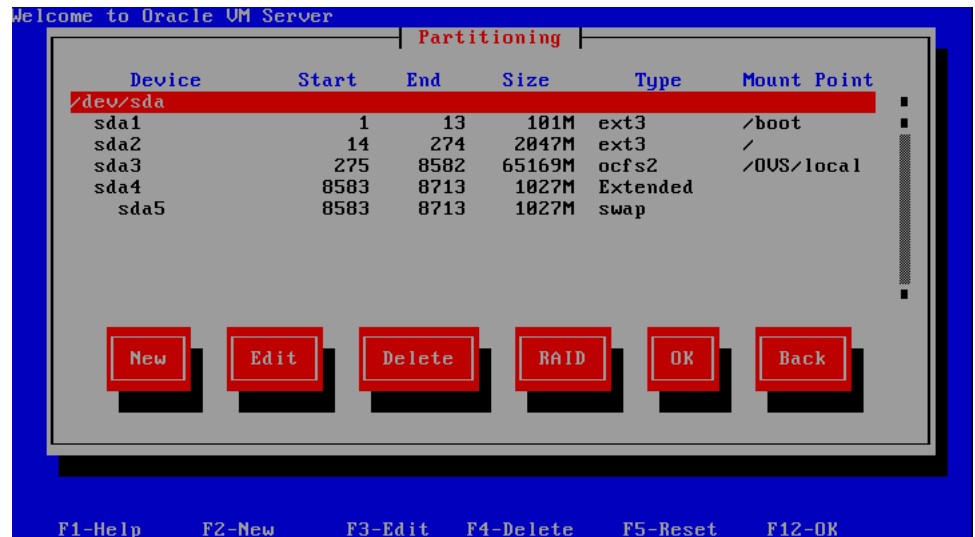
9. 「Review Partition Layout」画面が表示されます。



パーティションのレイアウトを確認せずにデフォルトのパーティション・レイアウトをそのまま使用する場合は、「No」を選択し、[Enter]を押します。

パーティションのレイアウトを確認する場合は、「Yes」を選択し、[Enter]を押します。

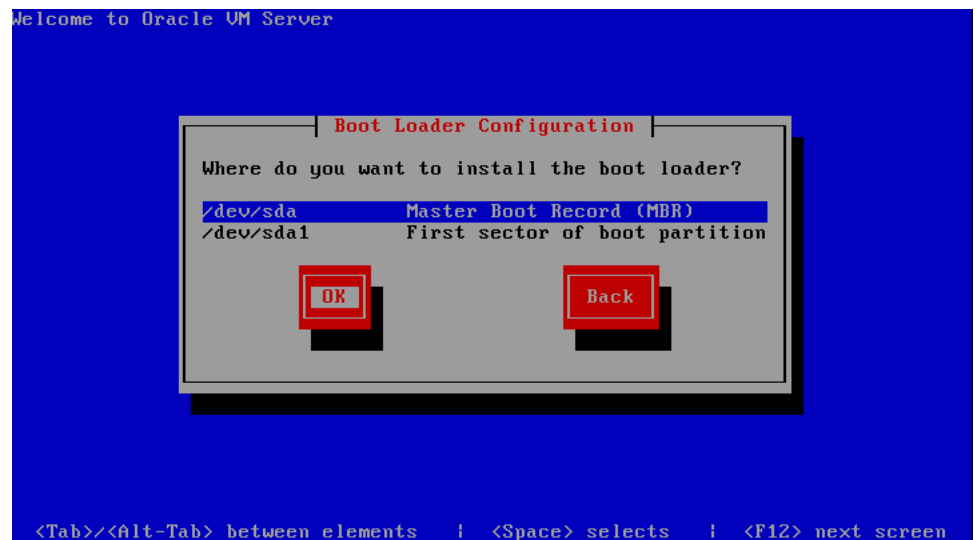
「Partitioning」画面が表示されます。



パーティションのレイアウトを確認し、必要な変更を行います。

「OK」を選択し、[Enter]を押して変更を保存します。

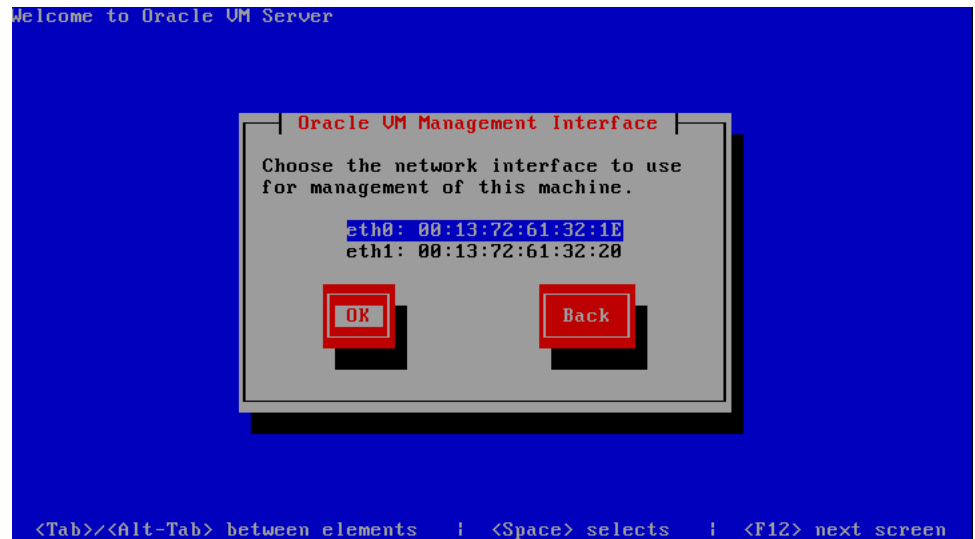
10. 「Boot Loader Configuration」画面が表示されます。



ブート・ローダーのインストール場所として、「Master Boot Record (MBR)」または「First sector of boot partition」を選択します。

「OK」を選択し、[Enter]を押します。

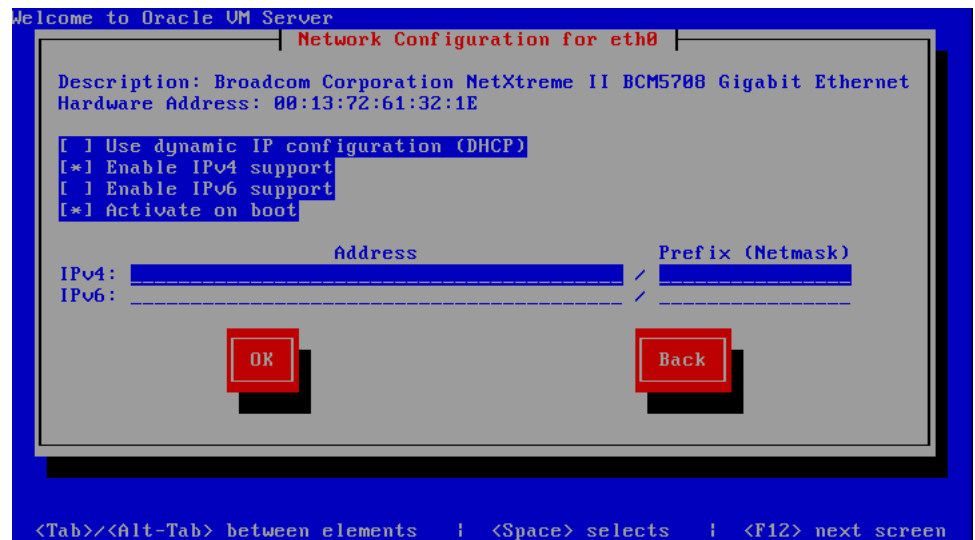
11. 「Oracle VM Server Management Interface」画面が表示されます。



コンピュータの管理に使用するネットワーク・インタフェースを選択します。

「OK」を選択し、[Enter]を押します。

12. 「Network Configuration for ethn」画面が表示されます。



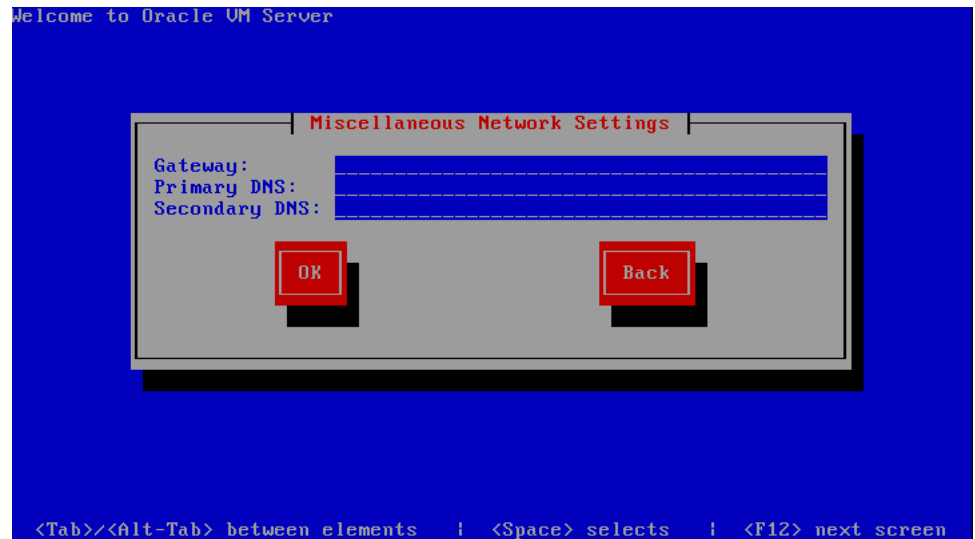
コンピュータで静的 IP アドレスを使用する場合は、IPv4 または IPv6、あるいはその両方を有効にするかを選択します。コンピュータの IP アドレスと接頭辞（ネットマスク）を入力します。NFS ドライブを使用してインストールを実行する場合は、IPv4 の詳細を入力する必要があります。IPv4 サポートは、デフォルトで有効です。

コンピュータで DHCP を使用して IP アドレスを割り当てる場合は、「Use dynamic IP configuration (DHCP)」を選択します。Oracle VM Server で DHCP を使用する場合は、1.3 項「ネットワーク要件」を参照してください。

コンピュータを起動するたびにネットワーク構成を有効にするかどうかを選択します。これは、デフォルトで有効です。

「OK」を選択し、[Enter]を押します。

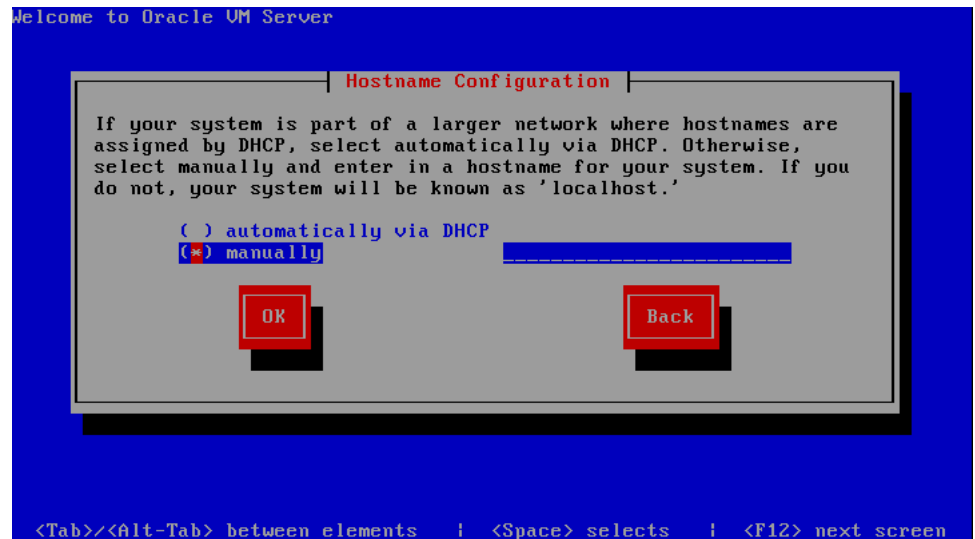
13. 「Miscellaneous Network Settings」画面が表示されます。



Gateway、Primary DNS、および Secondary DNS（オプション）の各フィールドを入力します。

「OK」を選択し、[Enter]を押します。

14. 「Hostname Configuration」画面が表示されます。

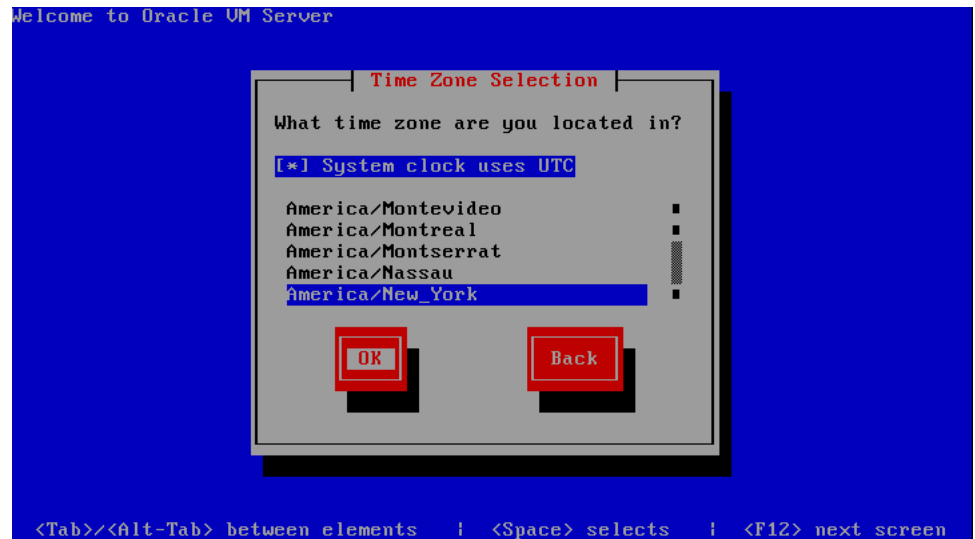


マシンに固有のホスト名がある場合は、「manually」を選択し、ホスト名または IP アドレスを入力します。

マシンで DHCP を使用してホスト名を割り当てる場合は、「automatically via DHCP」を選択します。Oracle VM Server で DHCP を使用する場合は、[1.3 項「ネットワーク要件」](#)を参照してください。

「OK」を選択し、[Enter]を押します。

15. 「Time Zone Selection」画面が表示されます。



オペレーティング・システムで Coordinated Universal Time (UTC) を使用する場合は、「System clock uses UTC」を選択します。

タイムゾーンは、コンピュータが物理的に存在する場所に最も近い都市から選択します。

「OK」を選択し、[Enter] を押します。

16. 「Oracle VM Agent password」画面が表示されます。



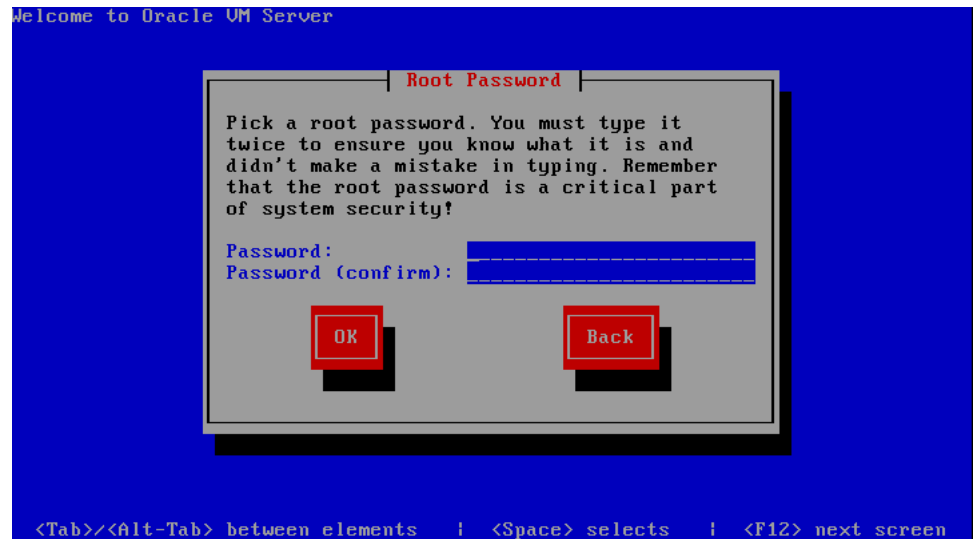
「Password」フィールドで、Oracle VM Agent に使用されるパスワードを入力します。このパスワードは、Oracle VM Manager が、Oracle VM Server および Oracle VM Server に作成したゲストを管理し、監視するために使用されます。

「Password (confirm)」フィールドで、パスワードを再度入力します。

パスワードの文字は、画面には表示されません。

「OK」を選択し、[Enter] を押します。2 つのパスワードが一致しないときは、インストーラから再入力のプロンプトが表示されます。

17. 「Root Password」画面が表示されます。



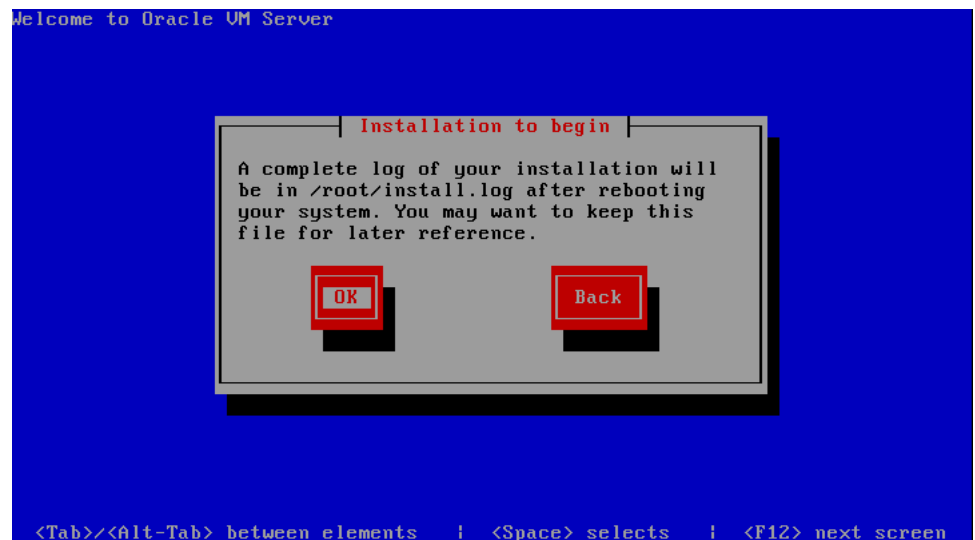
「Password」フィールドで、root ユーザーのパスワードを入力します。root ユーザーのパスワードは、少なくとも 6 文字以上にする必要があります。

「Password (confirm)」フィールドで、パスワードを再度入力します。

パスワードの文字は、画面に反映されません。

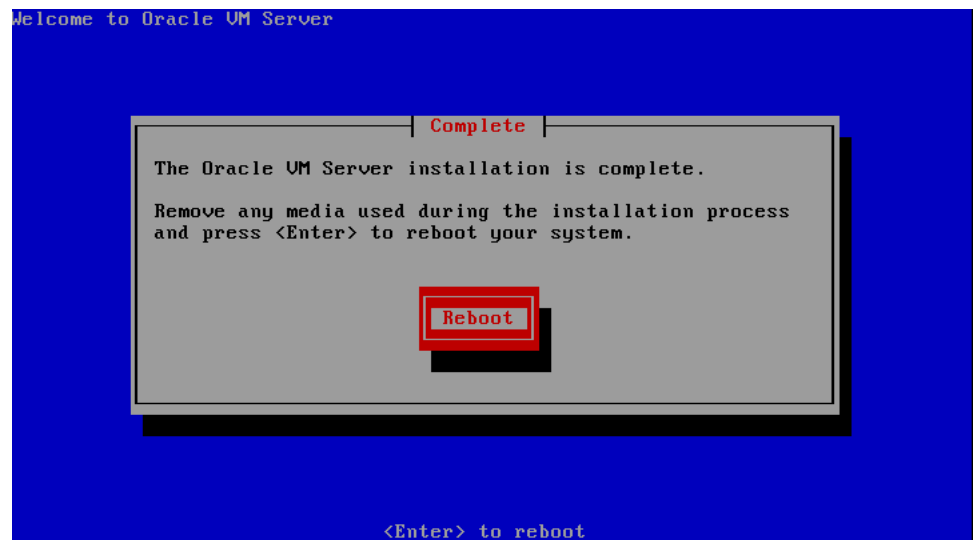
「OK」を選択し、[Enter] を押します。2 つのパスワードが一致しないときは、インストーラから再入力のプロンプトが表示されます。

18. 「Installation to begin」画面が表示されます。



「OK」を選択し、[Enter] を押します。Oracle VM Server がインストールされ、構成されます。

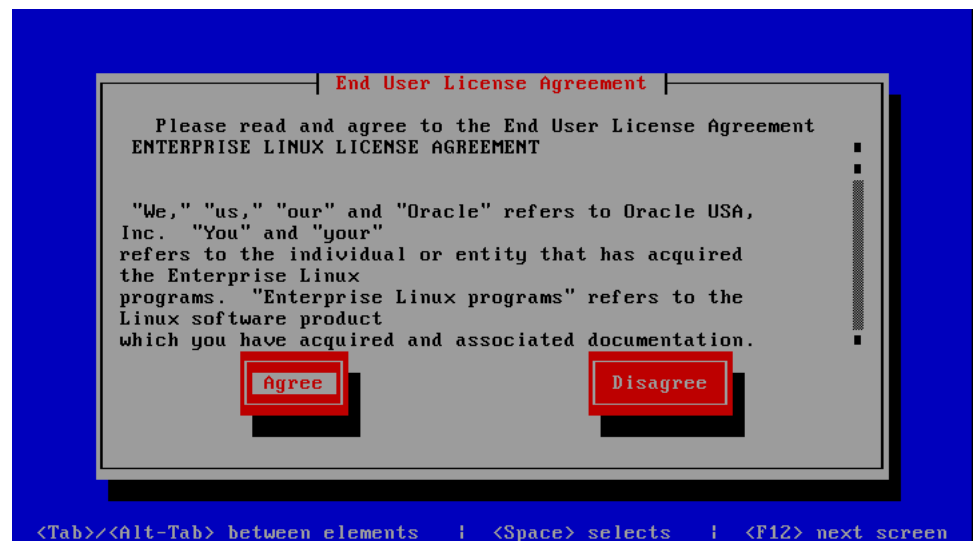
19. すべてのファイルがインストールされて構成が完了すると、「Complete」画面が表示されます。



Oracle VM Server CD-ROM を取り出します。

「Reboot」を選択し、[Enter]を押します。コンピュータが再起動されます。

20. 「End User License Agreement」画面が表示されます。



ライセンス契約を確認します。ライセンス契約の条項に同意する場合は、「Agree」を選択し、[Enter]を押します。

21. Oracle VM Server ログイン・プロンプトが表示されます。

```
Oracle VM server release 2.1.1
Hypervisor running in 64 bit mode with NO Hardware Virtualization support.

Network :
Management Interface :
If : eth0(Up) Mac : 00:0C:29:EC:9F:29 IP address : 192.168.55.128

Configured Networks and Bridges :
If : eth0 Mac : 00:0C:29:EC:9F:29
If : xenbr0 Mac : FE:FF:FF:FF:FF:FF

CPU :
cpu family : 6
model : 15
model name : Intel(R) Core(TM)2 Duo CPU E6850 @ 3.00GHz

localhost login:
```

インストール中に設定したパスワードを使用して、root として Oracle VM Server にログインします。

Oracle VM Server のインストールが完了します。Oracle VM Agent は自動的に起動され、コンピュータを再起動するたびに再起動されます。

注意： インストール・ログは、/root/install.log にあります。インストールに失敗したときは、このログ・ファイルを確認すると原因の特定に役立ちます。

3 他のソースからの Oracle VM Server のインストール

この項では、ハード・ディスク・ドライブ、NFS サーバー、FTP サーバー、または HTTP サーバーからの Oracle VM Server のインストールについて説明します。この項のすべてのインストールは、インストールに使用される場所で Oracle VM Server の ISO ファイルを使用できることが前提とされています。Oracle VM Server をインストールするには、次の手順を実行します。

1. Oracle VM Server CD-ROM を CD-ROM ドライブに挿入します。
2. Oracle VM Server CD-ROM がセットされているコンピュータを起動します。

3. 「Oracle VM Server」画面が表示されます。



「boot:」プロンプトで、次を入力します。

linux askmethod

[Enter] を押します。

4. 「Keyboard Type」画面が表示されます。



使用できるオプションのリストからキーボード・レイアウト・タイプ（米語の **us** など）を選択します。選択したキーボードは、オペレーティング・システムのデフォルトのキーボードになります。

「OK」を選択し、[Enter] を押します。

5. 「Installation Method」画面が表示されます。



インストール場所の選択に関連する項を参照して、インストールを続行します。

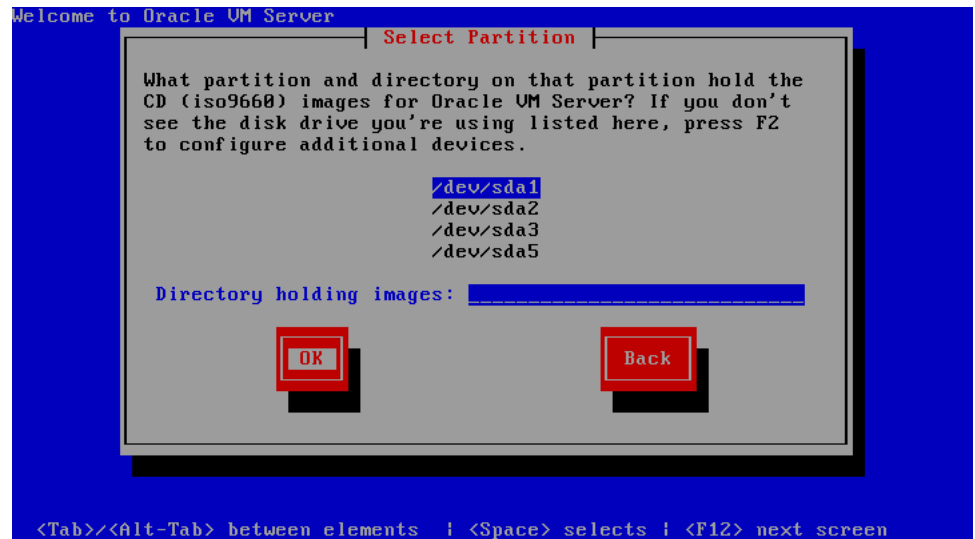
- 3.1 項「ハード・ディスク・ドライブからの Oracle VM Server のインストール」
- 3.2 項「NFS イメージからの Oracle VM Server のインストール」
- 3.3 項「FTP サーバーからの Oracle VM Server のインストール」
- 3.4 項「HTTP サーバーからの Oracle VM Server のインストール」

3.1 ハード・ディスク・ドライブからの Oracle VM Server のインストール

ハード・ディスク・ドライブから Oracle VM Server をインストールするには、次の手順を実行します。

1. インストール方法のリストから「**Hard drive**」を選択します。
「OK」を選択し、[Enter] を押します。

2. 「Select Partition」画面が表示されます。



Oracle VM Server の ISO ファイルを含むパーティションを選択します。パーティションは、EXT2 または VFAT ファイル・システムでフォーマットする必要があります。論理ボリュームにはできません。必要なパーティションがリストにないときは、**[F2]** を押して追加のデバイスを構成します。

「Directory holding images」フィールドで、Oracle VM Server の ISO イメージを含むディレクトリを入力します。Oracle VM Server の ISO ファイルがパーティションのルート（最上位）ディレクトリにある場合は、/（スラッシュ）を入力します。Oracle VM Server の ISO ファイルが、マウントされたパーティションのサブディレクトリにある場合は、そのパーティション内のファイルを含むディレクトリの名前を入力します。たとえば、Oracle VM Server の ISO ファイルがマウントされているパーティションが /myhome/ で、Oracle VM Server の ISO ファイルが /myhome/new/ にある場合は、/new/ を入力します。

「OK」を選択し、**[Enter]** を押します。

2 項「CD-ROM からの Oracle VM Server のインストール」の手順 7 を参照して、インストールを続行します。

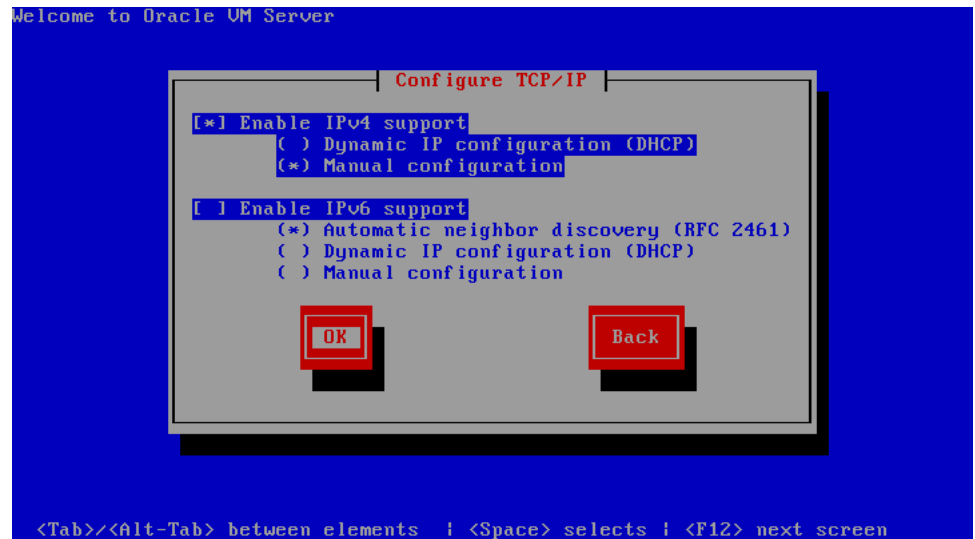
3.2 NFS イメージからの Oracle VM Server のインストール

Oracle VM Server の ISO ファイルまたはミラー・イメージのある NFS（Network File System）ドライブから Oracle VM Server をインストールできます。NFS ドライブから Oracle VM Server をインストールするには、次の手順を実行します。

1. インストール方法のリストから「NFS image」を選択します。

「OK」を選択し、**[Enter]** を押します。

2. 「Configure TCP/IP」画面が表示されます。

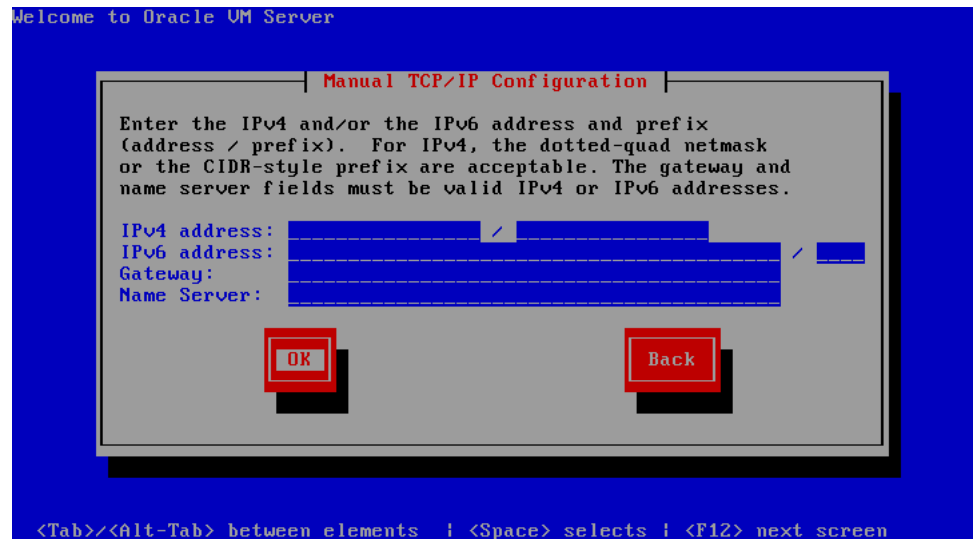


マシンで固有の IP アドレスを使用する場合は、「Enable IPv4 support」の「Manual configuration」を選択します。また、オプションで「Enable IPv6 support」の「Manual configuration」を選択します。IPv4 の詳細を入力する必要があります。

マシンで DHCP を使用して IP アドレスを割り当てる場合は、「Enable IPv4 support」の「Dynamic IP configuration (DHCP)」を選択します。また、オプションで「Enable IPv6 support」の「Dynamic IP configuration (DHCP)」を選択します。Oracle VM Server で DHCP を使用する場合は、[1.3 項「ネットワーク要件」](#)を参照してください。

「OK」を選択し、[Enter] を押します。

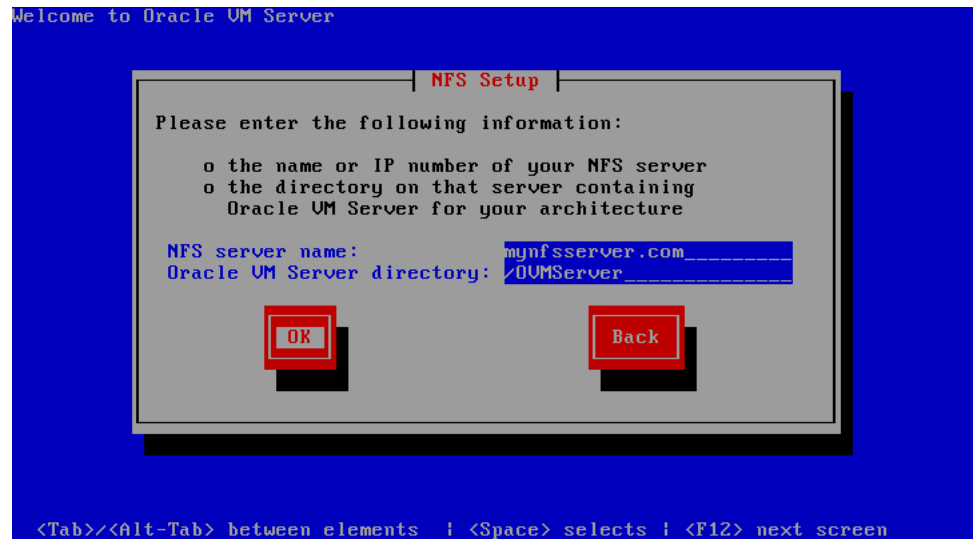
3. 「Manual configuration」を選択すると、「Manual TCP/IP Configuration」画面が表示されます。



IPv4 アドレス、IPv6 アドレス、ゲートウェイおよびネーム・サーバーを入力します。

「OK」を選択し、[Enter] を押します。

4. 「NFS Setup」画面が表示されます。



「NFS server name」フィールドで、NFS サーバーのドメイン名または IP アドレスを入力します。

NFS サーバーが Oracle VM Server インストール・ツリーのミラーをエクスポートしている場合、インストール・ツリーのルートを含むディレクトリを入力します。NFS サーバーが Oracle VM Server の ISO ファイルをエクスポートしている場合、ISO ファイルを含むディレクトリを入力します。

「OK」を選択し、[Enter] を押します。

2 項「CD-ROM からの Oracle VM Server のインストール」の手順 7 を参照して、インストールを続行します。

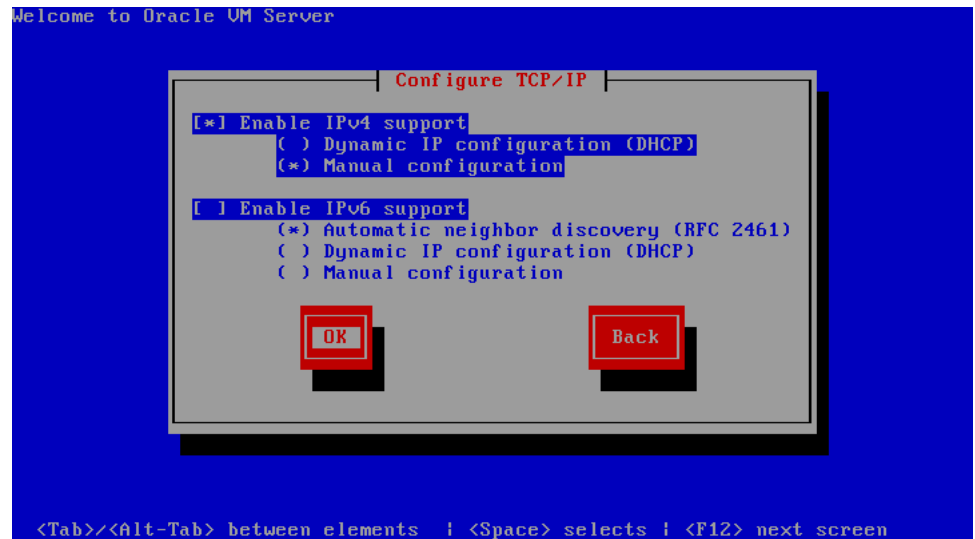
3.3 FTP サーバーからの Oracle VM Server のインストール

FTP サーバーから Oracle VM Server をインストールするには、次の手順を実行します。

1. インストール方法のリストから「FTP」を選択します。

「OK」を選択し、[Enter] を押します。

2. 「Configure TCP/IP」画面が表示されます。

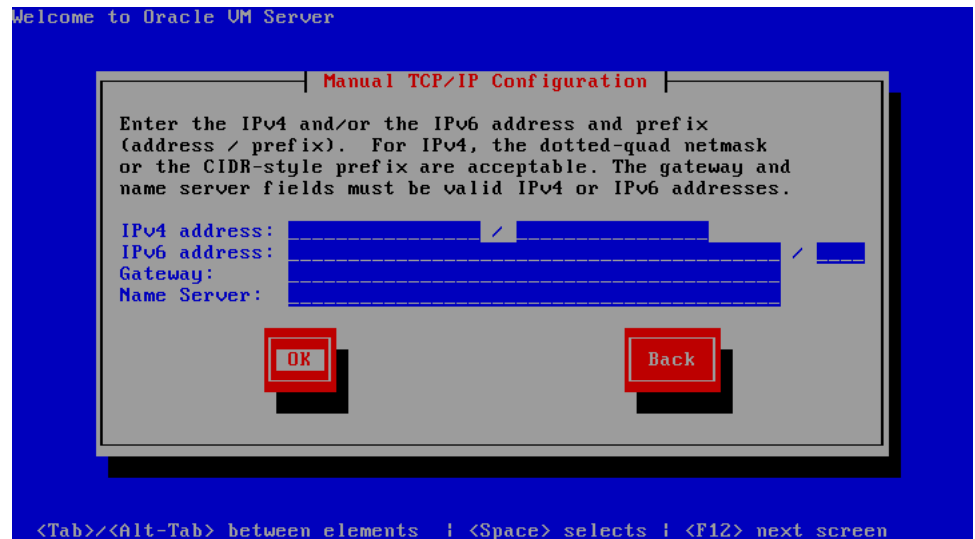


マシンで固有の IP アドレスを使用する場合は、「Enable IPv4 support」の「Manual configuration」を選択します。また、オプションで「Enable IPv6 support」の「Manual configuration」を選択します。IPv4 の詳細を入力する必要があります。

マシンで DHCP を使用して IP アドレスを割り当てる場合は、「Enable IPv4 support」の「Dynamic IP configuration (DHCP)」を選択します。また、オプションで「Enable IPv6 support」の「Dynamic IP configuration (DHCP)」を選択します。Oracle VM Server で DHCP を使用する場合は、1.3 項「ネットワーク要件」を参照してください。

「OK」を選択し、[Enter] を押します。

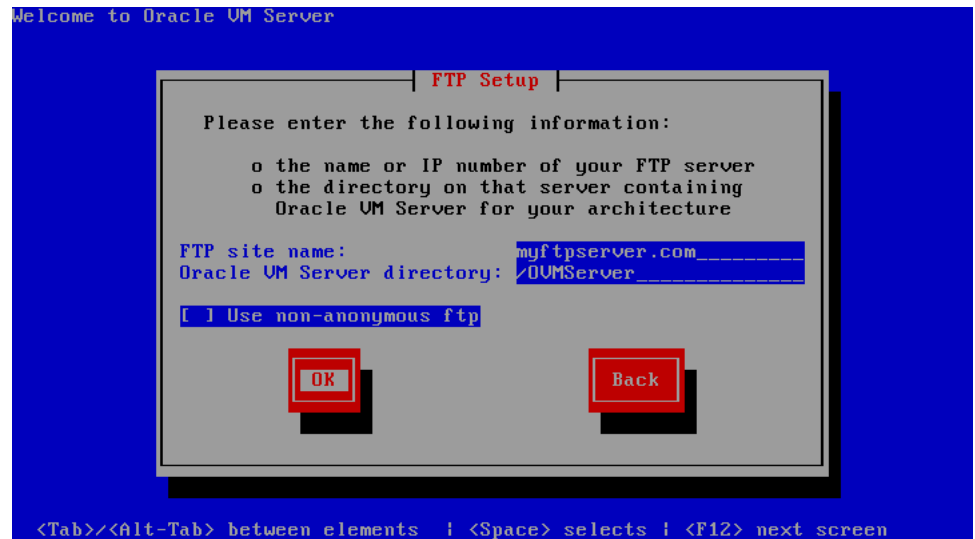
3. 「Manual configuration」を選択すると、「Manual TCP/IP Configuration」画面が表示されます。



IPv4 アドレス、IPv6 アドレス、ゲートウェイおよびネーム・サーバーを入力します。

「OK」を選択し、[Enter] を押します。

4. 「FTP Setup」画面が表示されます。



「FTP site name」フィールドで、FTP サーバーのドメイン名または IP アドレスを入力します。

「Oracle VM Server directory」フィールドで、アーキテクチャのバリエーション・ディレクトリを含むディレクトリの名前を入力します。たとえば、FTP サーバーに次のディレクトリが含まれる場合

```
/mirrors/ovs/arch/variant/
```

次を入力します。

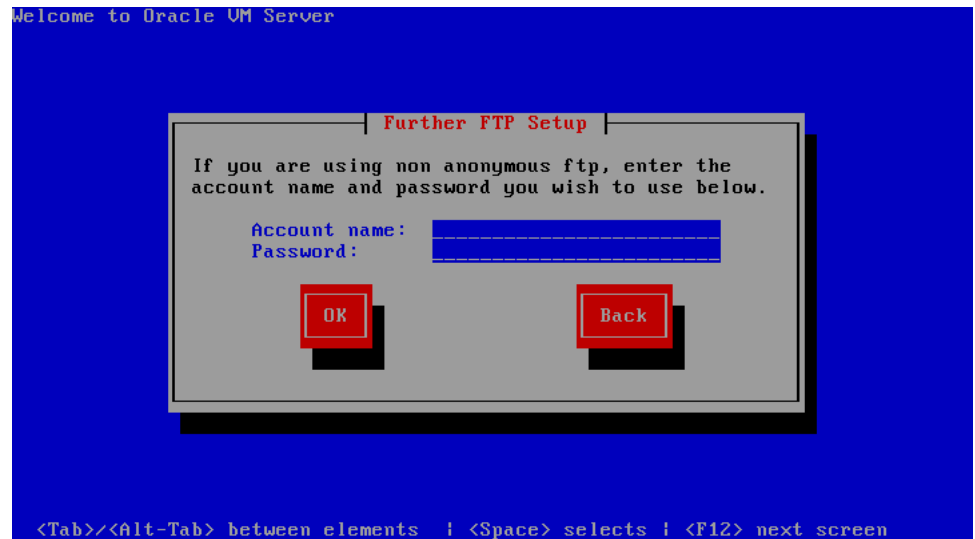
```
/mirrors/ovs/i386/Server
```

arch には、システムのアーキテクチャ・タイプ (i386、ia64、ppc、s390x など) を指定します。*variant* には、インストールしているバリエーション (Client、Server、Workstation など) を指定します。

FTP サーバーにアクセスするログイン資格証明を入力する必要がある場合は、「Use non-anonymous ftp」を選択します。

「OK」を選択し、[Enter] を押します。

5. 「Use non-anonymous ftp」を選択すると、「Further FTP Setup」画面が表示されます。



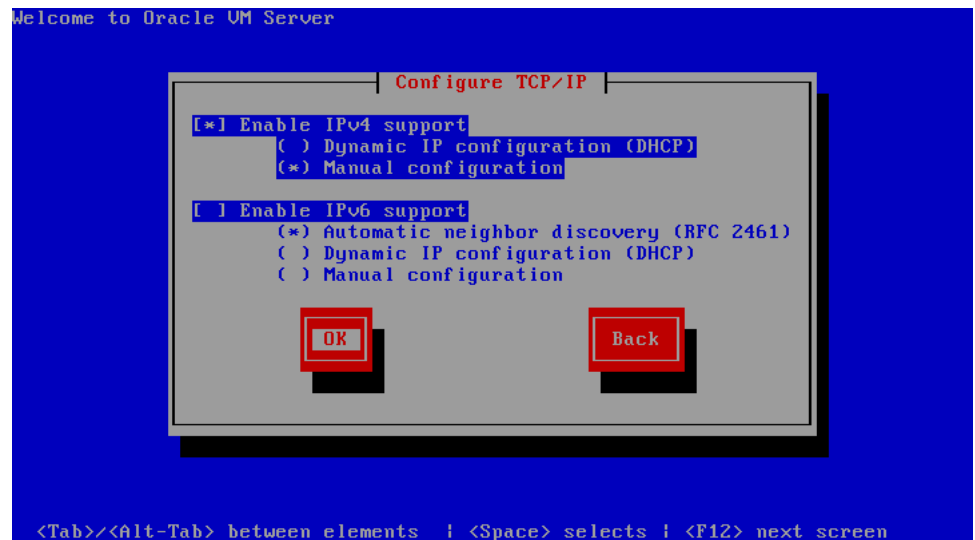
「Account name」フィールドに FTP サーバーのユーザー名、「Password」フィールドに FTP サーバーのパスワードを入力します。「OK」を選択し、[Enter] を押します。

2 項「CD-ROM からの Oracle VM Server のインストール」の手順 7 を参照して、インストールを続行します。

3.4 HTTP サーバーからの Oracle VM Server のインストール

HTTP サーバーから Oracle VM Server をインストールするには、次の手順を実行します。

1. インストール方法のリストから「HTTP」を選択します。
「OK」を選択し、[Enter] を押します。
2. 「Configure TCP/IP」画面が表示されます。



マシンで固有の IP アドレスを使用する場合は、「Enable IPv4 support」の「Manual configuration」を選択します。また、オプションで「Enable IPv6 support」の「Manual configuration」を選択します。IPv4 の詳細を入力する必要があります。

マシンで DHCP を使用して IP アドレスを割り当てる場合は、「Enable IPv4 support」の「Dynamic IP configuration (DHCP)」を選択します。また、オプションで「Enable IPv6 support」の「Dynamic IP configuration (DHCP)」を選択します。Oracle VM Server で DHCP を使用する場合は、1.3 項「ネットワーク要件」を参照してください。

「OK」を選択し、[Enter] を押します。

3. 「Manual configuration」を選択すると、「Manual TCP/IP Configuration」画面が表示されます。

Welcome to Oracle VM Server

Manual TCP/IP Configuration

Enter the IPv4 and/or the IPv6 address and prefix (address / prefix). For IPv4, the dotted-quad netmask or the CIDR-style prefix are acceptable. The gateway and name server fields must be valid IPv4 or IPv6 addresses.

IPv4 address: /

IPv6 address: /

Gateway:

Name Server:

OK Back

<Tab>/<Alt-Tab> between elements | <Space> selects | <F12> next screen

IPv4 アドレス、IPv6 アドレス、ゲートウェイおよびネーム・サーバーを入力します。

「OK」を選択し、[Enter] を押します。

4. 「HTTP Setup」画面が表示されます。

Welcome to Oracle VM Server

HTTP Setup

Please enter the following information:

- o the name or IP number of your Web server
- o the directory on that server containing Oracle VM Server for your architecture

Web site name:

Oracle VM Server directory:

OK Back

<Tab>/<Alt-Tab> between elements | <Space> selects | <F12> next screen

「Web site name」フィールドで、HTTP サーバーのドメイン名または IP アドレスを入力します。

「Oracle VM Server directory」フィールドで、アーキテクチャのバリエーション・ディレクトリを含むディレクトリの名前を入力します。たとえば、HTTP サーバーに次のディレクトリが含まれる場合

```
/mirrors/ovs/arch/variant/
```

次を入力します。

```
/mirrors/ovs/i386/Server
```

arch には、システムのアーキテクチャ・タイプ (i386、ia64、ppc、s390x など) を指定します。*variant* には、インストールしているバリエーション (Client、Server、Workstation など) を指定します。

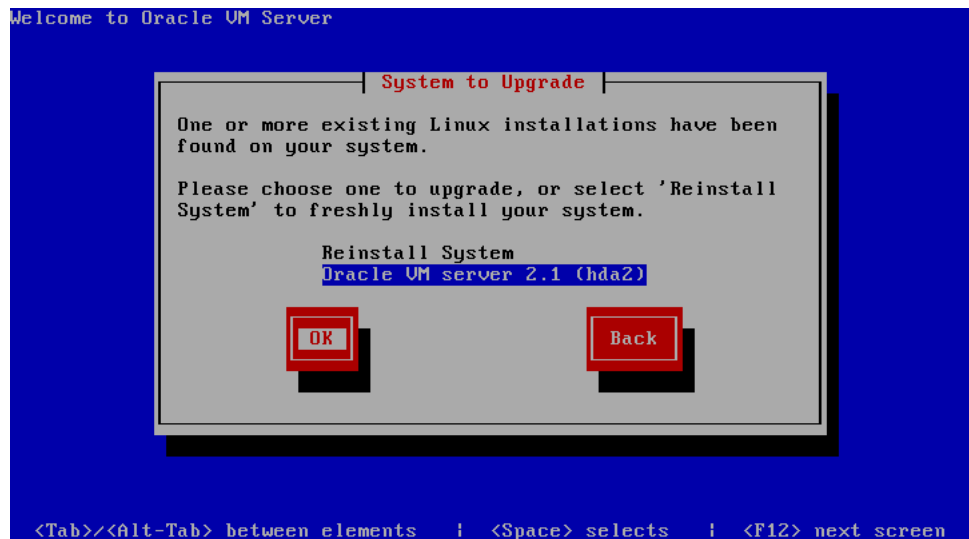
「OK」を選択し、[Enter] を押します。

2 項「CD-ROM からの Oracle VM Server のインストール」の手順 7 を参照して、インストールを続行します。

4 Oracle VM Server のアップグレード

この項では、以前のインストールから Oracle VM Server をアップグレードする方法について説明します。Oracle VM Server をアップグレードするには、次の手順を実行します。

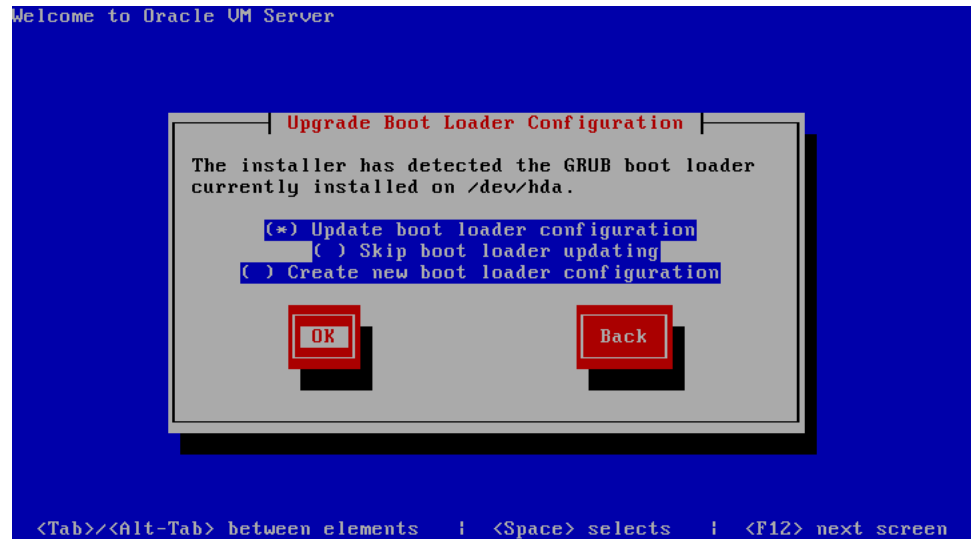
1. 2 項「CD-ROM からの Oracle VM Server のインストール」または 3 項「他のソースからの Oracle VM Server のインストール」の手順を実行して、Oracle VM Server インストーラを起動します。「System to Upgrade」画面が表示されたら、次の手順を使用してアップグレードを実行します。
2. 既存の Oracle VM Server インストールがコンピュータに存在する場合は、「System to Upgrade」画面が表示されます。



「Oracle VM Server 2.1 (disk)」を選択して、既存のインストールをアップグレードします。

「OK」を選択し、[Enter] を押します。

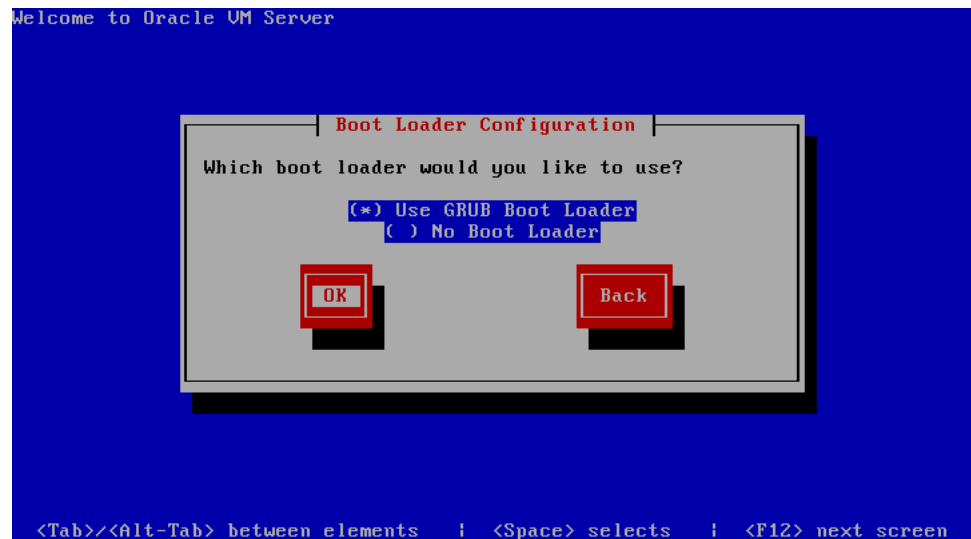
3. 「Upgrade Boot Loader Configuration」画面が表示されます。



既存のブート・ローダーを更新するには、「Update boot loader configuration」を選択します。ブート・ローダーを変更しない場合は、「Skip boot loader updating」を選択します。新しいブート・ローダーを作成するには、「Create new boot loader configuration」を選択します。

「OK」を選択し、[Enter] を押します。

「Create new boot loader configuration」を選択すると、「Boot Loader Configuration」画面が表示されます。

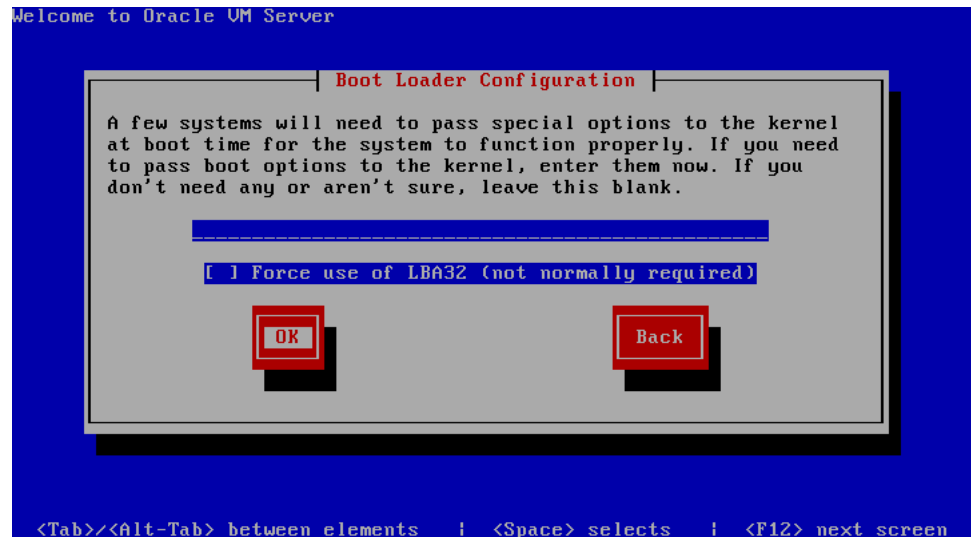


GRUB ブート・ローダーを使用する場合は、「Use GRUB Boot Loader」を選択します。ブート・ローダーを作成しない場合は、「No Boot Loader」を選択します。

「OK」を選択し、[Enter] を押します。

「No Boot Loader」を選択すると、「Skip Boot Loader」画面が表示されます。ブート・ローダーをインストールして使用することをお勧めします。「Yes」または「No」を選択して、選択項目を確認します。

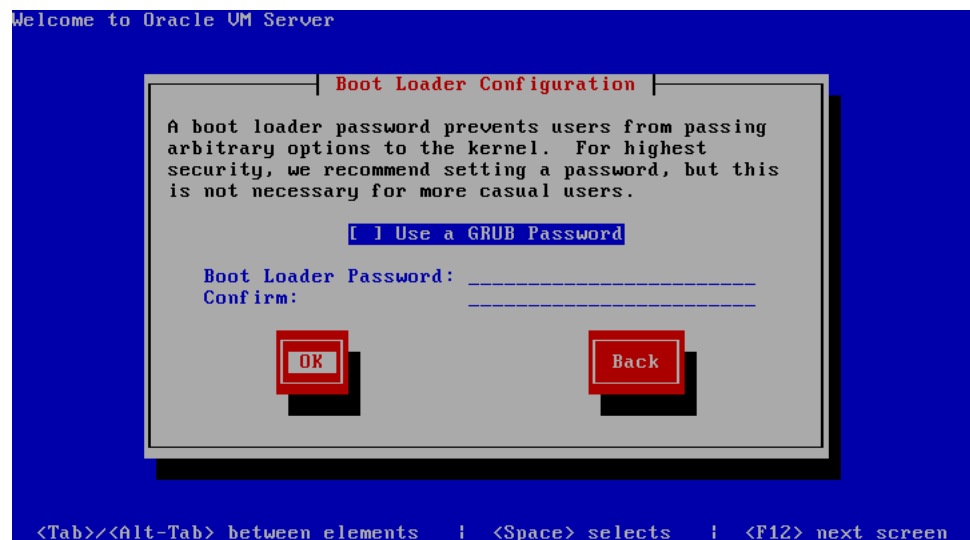
「Use GRUB Boot Loader」を選択すると、「Boot Loader Configuration」画面が表示されます。



追加のブート・オプションをカーネルに渡す必要がある場合は、この画面で入力します。強制的に LBA32 を使用する場合は、「Force use of LBA32 (not normally required)」を選択します。

「OK」を選択し、[Enter] を押します。

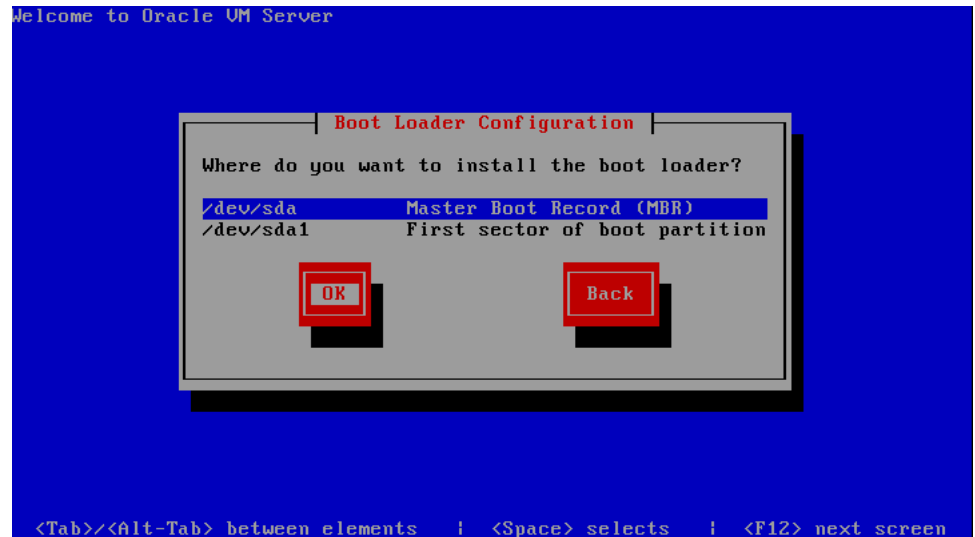
「Boot Loader Configuration」画面が表示されます。



ブート・ローダー・パスワードを設定してマシンのセキュリティを強化するには、「**Use a GRUB Password**」を選択し、「**Boot Loader Password**」フィールドにパスワードを入力した後、「**Confirm**」フィールドでパスワードを再度入力します。

「**OK**」を選択し、[Enter]を押します。

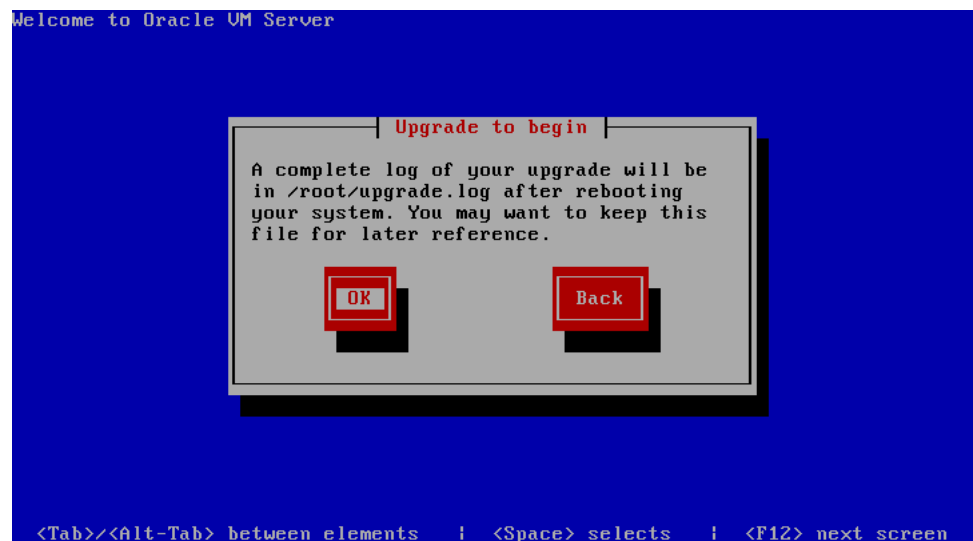
「**Boot Loader Configuration**」画面が表示されます。



ブート・ローダーのインストール場所として、「**Master Boot Record (MBR)**」または「**First sector of boot partition**」を選択します。

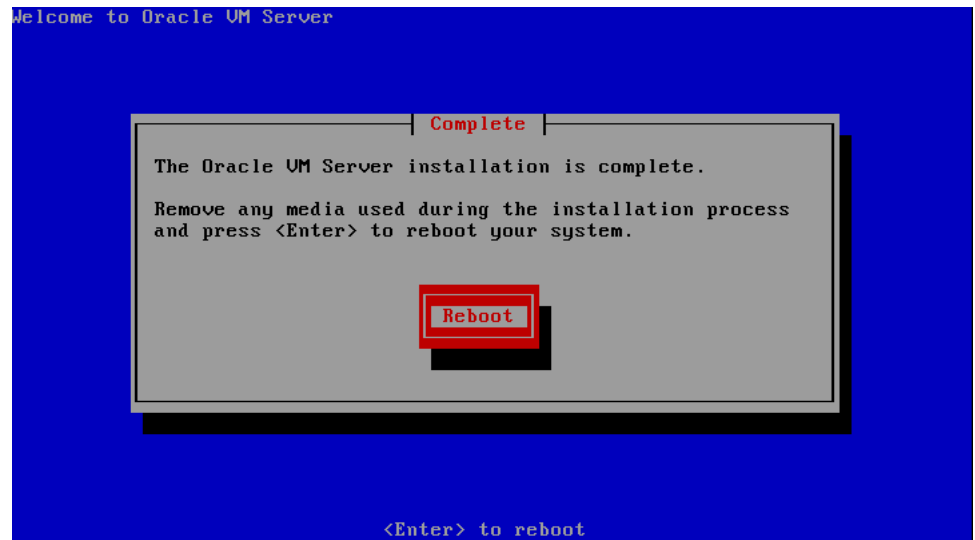
「**OK**」を選択し、[Enter]を押します。

4. 「**Upgrade to begin**」画面が表示されます。



「**OK**」を選択し、[Enter]を押します。Oracle VM Server がインストールされ、構成されます。

5. すべてのファイルがインストールされて構成が完了すると、「Complete」画面が表示されます。



CD-ROM ドライブからアップグレードを実行した場合は、Oracle VM Server CD-ROM を取り出します。

「Reboot」を選択し、[Enter]を押します。コンピュータが再起動されます。

Oracle VM Server ログイン・プロンプトが表示されます。

Oracle VM Server のアップグレードが完了します。

注意： インストール・ログは、/root/upgrade.log にあります。インストールに失敗したときは、このログ・ファイルを確認するとインストールの問題の原因を特定するために役立ちます。

5 ドキュメントのアクセシビリティについて

オラクル社は、障害のあるお客様にもオラクル社の製品、サービスおよびサポート・ドキュメントを簡単にご利用いただけることを目標としています。オラクル社のドキュメントには、ユーザーが障害支援技術を使用して情報を利用できる機能が組み込まれています。HTML 形式のドキュメントで用意されており、障害のあるお客様が簡単にアクセスできるようにマークアップされています。標準規格は改善されつつあります。オラクル社はドキュメントをすべてのお客様がご利用できるように、市場をリードする他の技術ベンダーと積極的に連携して技術的な問題に対応しています。オラクル社のアクセシビリティについての詳細情報は、Oracle Accessibility Program の Web サイト <http://www.oracle.com/accessibility/> を参照してください。

ドキュメント内のサンプル・コードのアクセシビリティについて

スクリーン・リーダーは、ドキュメント内のサンプル・コードを正確に読めない場合があります。コード表記規則では閉じ括弧だけを行に記述する必要があります。しかし JAWS は括弧だけの行を読まない場合があります。

外部 Web サイトのドキュメントのアクセシビリティについて

このドキュメントにはオラクル社およびその関連会社が所有または管理しない Web サイトへのリンクが含まれている場合があります。オラクル社およびその関連会社は、それらの Web サイトのアクセシビリティに関しての評価や言及は行っておりません。

Oracle サポート・サービスへの TTY アクセス

アメリカ国内では、Oracle サポート・サービスへ 24 時間年中無休でテキスト電話 (TTY) アクセスが提供されています。TTY サポートについては、(800)446-2398 にお電話ください。アメリカ国外からの場合は、+1-407-458-2479 にお電話ください。

6 サポートおよびサービス

次の各項に、各サービスに接続するための URL を記載します。

6.1 Oracle サポート・サービス

オラクル製品サポートの購入方法、および Oracle サポート・サービスへの連絡方法の詳細は、次の URL を参照してください。

<http://www.oracle.com/lang/jp/support/index.html>

6.2 製品マニュアル

製品のマニュアルは、次の URL にあります。

<http://www.oracle.com/technology/global/jp/documentation/index.html>

6.3 研修およびトレーニング

研修に関する情報とスケジュールは、次の URL で入手できます。

http://education.oracle.com/pls/web_prod-plq-dad/db_pages.getpage?page_id=3

6.4 その他の情報

オラクル製品やサービスに関するその他の情報については、次の URL から参照してください。

<http://www.oracle.com/lang/jp/index.html>

<http://www.oracle.com/technology/global/jp/index.html>

注意： ドキュメント内に記載されている URL や参照ドキュメントには、Oracle Corporation が提供する英語の情報も含まれています。日本語版の情報については、前述の URL を参照してください。

制限付権利の説明

このプログラム（ソフトウェアおよびドキュメントを含む）には、オラクル社およびその関連会社に所有権のある情報が含まれています。このプログラムの使用または開示は、オラクル社およびその関連会社との契約に記された制約条件に従うものとします。著作権、特許権およびその他の知的財産権と工業所有権に関する法律により保護されています。

独立して作成された他のソフトウェアとの互換性を得るために必要な場合、もしくは法律によって規定される場合を除き、このプログラムのリバース・エンジニアリング、逆アセンブル、逆コンパイル等は禁止されています。

このドキュメントの情報は、予告なしに変更される場合があります。誤りを見つけた場合は、オラクル社までご連絡ください。オラクル社およびその関連会社は、このドキュメントに誤りが無いことの保証は致し兼ねます。これらのプログラムのライセンス契約で許諾されている場合を除き、プログラムを形式、手段（電子的または機械的）、目的に関係なく、複製または転用することはできません。

このプログラムが米国政府機関、もしくは米国政府機関に代わってこのプログラムをライセンスまたは使用する者に提供される場合は、次の注意が適用されます。

U.S. GOVERNMENT RIGHTS

Programs, software, databases, and related documentation and technical data delivered to U.S. Government customers are "commercial computer software" or "commercial technical data" pursuant to the applicable Federal Acquisition Regulation and agency-specific supplemental regulations. As such, use, duplication, disclosure, modification, and adaptation of the Programs, including documentation and technical data, shall be subject to the licensing restrictions set forth in the applicable Oracle license agreement, and, to the extent applicable, the additional rights set forth in FAR 52.227-19, Commercial Computer Software--Restricted Rights (June 1987). Oracle USA, Inc., 500 Oracle Parkway, Redwood City, CA 94065.

このプログラムは、核、航空、大量輸送、医療あるいはその他の本質的に危険を伴うアプリケーションで使用されることを意図しておりません。このプログラムをかかえる目的で使用する際、上述のアプリケーションを安全に使用するために、適切な安全装置、バックアップ、冗長性（**redundancy**）、その他の対策を講じることは使用者の責任となります。万一かかるプログラムの使用に起因して損害が発生いたしましても、オラクル社およびその関連会社は一切責任を負いかねます。

Oracle、JD Edwards、PeopleSoft、Siebel は米国 Oracle Corporation およびその子会社、関連会社の登録商標です。その他の名称は、他社の商標の可能性があります。

このプログラムは、第三者の Web サイトへリンクし、第三者のコンテンツ、製品、サービスへアクセスすることがあります。オラクル社およびその関連会社は第三者の Web サイトで提供されるコンテンツについては、一切の責任を負いかねます。当該コンテンツの利用は、お客様の責任になります。第三者の製品またはサービスを購入する場合は、第三者と直接の取引となります。オラクル社およびその関連会社は、第三者の製品およびサービスの品質、契約の履行（製品またはサービスの提供、保証義務を含む）に関しては責任を負いかねます。また、第三者との取引により損失や損害が発生いたしましても、オラクル社およびその関連会社は一切の責任を負いかねます。

